

常任委員会 行政視察会

【文教厚生委員会】

期日 平成25年2月

18日～20日

場所 長崎県雲仙市・島原市

熊本県熊本市

内容 雲仙市では、「みずほすこやかランド」について視察しました。

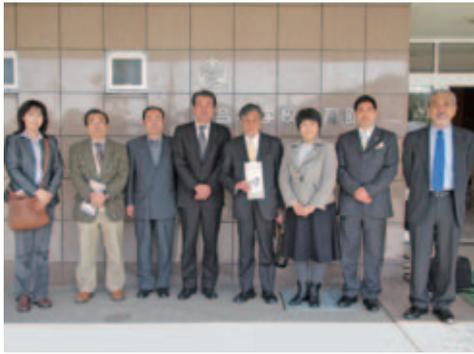
当施設は、各種研修や宿泊に利用できるふれあい会館、デイサービスの中核施設のヘルシー会館、多目的グラウンド等のスポーツ施設、温泉、プール等、多彩な施設が充実しており、文化、スポーツの活動拠点として、市民のふれあいの場として活用が期待できる施設でした。

島原市では、「島原みまもりネット」について視察しました。

当事業は、小学校全10校の31カ所の校門等にICタグリーダーとWEBカメラを設置し、ICタグを持たせた小学1・2年生を対象にICタグの読み取りと画像情報で登下校情報を把握、情報をメールで保護者に配信し、児童の安心・安全を確保するもので、

保護者からの評価も高く、参考になる事例でした。
熊本市では、「小中一貫教育」について視察しました。

近年の児童・生徒の体格や心の成長の速度、中1ギャップの解消の観点から、小中9年間を見通して教育を進めており、自然との触れ合いや世代間交流が減少している中で、「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」の一部を融合した『生き方創造科』を創設するなど特色ある教育を実践しており、地元住民との連携も成功している事例でした。



【環境経済委員会】

期日 平成25年2月

19日～20日

場所 愛知県大府市・三重県桑名市

内容 大府市では、「健耕サポーター事業」について説明を受けました。

健耕サポーター制度は、耕作放棄地対策のために取り組み始めた制度であり、若手職員によるプロジェクト会議を設置し、市民と農家と行政のパートナーシップによる農業サポーターを提案し、平成22年に開始されました。

高齢化による農家の減少に歯止めをかけるべく、農業に興味のある市民の就農へのきっかけづくりとし開始されたこの事業ですが、平成24年度現在、受入農家数20戸、サポーター登録者数50人と毎年登録者が増えているとのこと。

市民力を活かした耕作放棄地を活用している点、当市にも参考になるものでした。

桑名市では「市営斎場おびるの森」を視察しました。

老朽化、狭隘化のため平成22年に造られました。この施設の特徴は、焼却施設並みの排気装備を備え、集塵装置は湿式スクライパーを採用しており、悪臭等の苦情がほとんどないということ。施設の建築面積も4千㎡

近くあり、他の葬儀の参列者と顔を合わすことがないような配置にしているなどの工夫も成されておりました。

本市の斎場建設についても大いに参考になるもので、当委員会からも執行部に働きかけ、よりよい斎場を完成させたいと感じさせるものでした。



【都市建設委員会】

期日 平成25年2月

19日～20日

場所 兵庫県神戸市・淡路市

内容 淡路市では、「北淡震災記念公園内の野島断層保存館」を視察しました。

野島断層保存館は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災で現れた野島断層（国指定天然記念物）を保存・展示している施設で、セミナーハウスで「震災の語りべ」から震災当時の生々しい体験談をお聞きし、また、再現された「地

震直後の台所」等の施設を見学いたしました。

震災から得た教訓と防災に対する意識の発信をする施設で、参考になりました。

神戸市では、「新長田地区中心市街地活性化基本計画」について説明を受けました。

神戸市の新長田地区は、阪神・淡路大震災で甚大な被害を蒙ったが、未曾有の震災を経験した都市として、安全・安心のまちづくりを進めるとともに、震災の教訓を広く発信することを目指したことから、復興事業による都市基盤の再生から、その次の段階である神戸市西部の都市核としての高度な機能を備えたまちを目指した点が特徴でした。

神戸出身の漫画家にちなんだシンボルを活用したプロジェクトなど51の事業は、本市で策定中の計画に大変参考になるものでした。

議会報編集委員会

- 委員長 寺内 充
- 副委員長 井坂 正典
- 委員 篠塚 昌毅
- 柴原 伊一郎
- 荒井 武
- 沼田 義雄